

意見交換会の概要

1 日 時：令和 7 年 8 月 6 日（水）10：00～11：35

場 所：第二委員会室

出席者：議員

加藤座長、川島議員、井狩議員、谷口議員、河井議員、野田議員、
駒井議員、田中誠議員、岩崎議員、中山議員

学生

田中さん、南部さん、石村さん、堀さん、北野さん、藤井さん、
森田さん、石原さん、野原さん

（１）各議員自己紹介

（２）参加学生自己紹介

（３）意見交換

◎加藤座長 今回の参議院議員選挙について、投票率が向上していますが、それぞれ感じていることがあれば学生の皆さんに伺いたいと思います。

○参加学生 期日前投票等の認知度が低いと考えています。

○参加学生 論点が分かりやすかったのが、今回、投票率が向上した理由だと思います。生活に直結することが争点になっていました。

○参加学生 今まで政治に関心がなかった周囲の人が、投票に行こうという話をするなど、身近で選挙について話している人が増えたと感じました。

○参加学生 若い人が投票に行くのは良いことだと思いますが、1票の重みを感じて投票している人がどれぐらいいるのかと考えています。

○参加学生 SNS 戦略に取り組む議員が増えたと感じました。また、ユーチューバーが各議員の公約を説明する動画を投稿するなどしており、若者の政治への窓口が広がったような気がしました。

○参加学生 SNS を含め、日本の現状について危機感を煽るようなメディアが多かったように感じました。

○参加学生 SNS 等を見ていると、現状の政治に対して、変えてほしい部分だけを見て投票している人が多いように感じましたが、今後は、実現方法等まで見て投票

する必要がありますと考えています。

○参加学生 国政への危機感が高まったことが、今回投票率が向上した理由だと思います。

○参加学生 身近なことに直結するような項目が多かったことが、今回の参議院議員選挙の投票率向上の理由だと思います。一方、地方選挙は、身近な生活に直結するようなことが少ないため、投票率が向上しないと考えています。私の周りでは、政治に関心がない人がまだまだ多いと感じており、SNSも大事ですが、対面での演説等により、政治を身近なものだと感じてもらうことが投票率向上につながると 생각합니다。

◎川島議員 国政への危機感が投票率向上につながったという意見がありましたが、過去から同じような傾向が続いています。政治に危機感が高まった時に、投票率が向上し、政治が安定している時には、政治に目が向かないため、投票率は下がります。

参議院議員選挙の投票率を見ると、20代は低くても、30代に上がっています。なぜかということ、生活に政治が入ってくるからです。20代の投票率が低いのは昔からです。20代は他にやりたいことも多く、政治に目が向かないため、投票率が低いのです。これは、ある意味では健全な話ですが、将来のことを考えるとそれではいけません。明日滅亡すると分かっているにもかかわらず未来に向けて何かをするのが政治です。子供たち、孫たちに何を残すのかを考えるのが政治なので、今の状況だけでなく、先を見据えて取り組んでいくことが大事です。

また、選挙に行く人の7割程度が、誰かに頼まれて投票しています。公約を見ながら考えている人は、1割ぐらいだと思いますが、そういったことは重要なので、どんどん発信をして、議論をしてもらいたいです。

◎加藤座長 今の話やSNSの話など、遠慮なく質問してください。

◎田中誠議員 毎日SNSで発信を続けていますが、見てもらわないと意味がないと考えています。こういう発信であれば目に留まるというようなものがあれば教えていただきたいです。

○参加学生 現在は、こういった投稿をされていますか。

◎田中誠議員 県議会議員としての活動をはじめ、維新の会の活動、また、県民としての投稿など、敷居が低くなるよう、議員の毎日を分かってもらえるような投稿をしています。

○参加学生　見る側の立場として、議員自身の投稿はあまり目に入らず、第三者が投稿している切り抜きが目につくことが多いです。議員自身が投稿すると、どうしても作っている感じが出てしまうので、ありのままの姿を第三者から投稿してもらった方が良いのではないのでしょうか。

◎野田議員　皆さんが使っているＳＮＳ等はレコメンド機能で、自分が見た投稿に近いものがおすすめされることは認識していますか。

○学生一同　（知っているとは回答）

○参加学生　田中議員に伺いたいのですが、ＳＮＳ活動の目的は、政治への関心を高めることか、政治活動の内容を伝えたいのか、どちらでしょうか。

◎田中誠議員　議員が遠い存在であると思われることが良くないと思っています。まずは議員のいろんな面を見てもらい、皆さんと同じ目線で活動していることを知ってもらう必要があると考えています。

○参加学生　政治への関心を高めると言うよりは、田中議員の活動を伝える側面が大きいということでしょうか。

◎田中誠議員　まずは入り口として見てもらい、関心を高めていきたいということです。

◎加藤座長　今では多くの議員がＳＮＳ活動等を行っていますが、どのような目的で行っているのかという質問に対し、どなたか回答はないですか。

◎川島議員　石原さんの質問は核心を突いていると思います。選挙で当選をしないと議員になれないため、誰しも、ＳＮＳ活動等でアピールをしながら、投票してもらいたいという気持ちはあります。第三者による切り抜きは、そういった部分が見えないから、目につくのだと思います。

◎谷口議員　参議院議員選挙で、期日前投票に行くと投票用紙が書き換えられるといったデマ動画を真に受けている方がいましたが、ＳＮＳ上には、一部そういったデマが存在することを認識されていますか。

○参加学生 デマ動画もよく目にする一方、それに対する対策動画もよく目にするため、デマの存在を認識した上で、投票される方が多いのではないかと思います。

◎谷口議員 様々なものを見て、デマには騙されていないという認識で投票行動をしているということです。

◎川島議員 デマ動画に騙されるのは60代、70代のネットリテラシーの低い人が多く、若い人はデマ動画を大体判別できるので騙される人は少ないと思いますが、それについてどう思いますか。

○参加学生 そもそも高齢者には、デマ動画は届いていないのではないかと思います。また、ユーチューブのコメントでデマ動画に騙されている人がいるのはよく見かけるので、20代が全員騙されていないかという、そうではないと思います。しかし、私の周囲では、背景を見ることができる人が多いという印象です。

政治に関心が高い人ほど、情報の裏を取る人が多く、関心が低い人ほど、情報を鵜呑みにしてしまうと考えています。

○参加学生 デマを含め、情報操作が行われていたりはしないのでしょうか。例えば、デマで誰かが当選するといったことはあるのですか。

◎川島議員 それはあります。選挙では、うっかり1票を入れて、間違った人が当選してしまったら、立て直しの16年かかると言われています。デマに流されてしまうと、困るのは国民、県民であるので、デマを取捨選択する力は非常に大事だと思います。

◎野田議員 TikTok等で、各地域の情勢のランキングを流している動画を見ましたが、はっきり順位付けすることは公職選挙法で禁止されています。これは、誰かが印象を操作しているということです。

○参加学生 偽情報に対する対応として、ルールを厳しくするか、それも含めて選挙であるとするか、議員の皆さんはどちらが良いと考えますか。

◎野田議員 公職選挙法を時代に合わせて変える必要があると考えています。特に市議会議員選挙など、例えば大津市であれば、50人の候補から7日間で誰に1票を入れるのか考える必要があり、無理があると思います。SNS、デマ情報等を含めて、今の時代に合ったルールに変えていかないといけないと思いますが、ルールを厳格化

するか、それも含めて選挙とするかは次の段階だと考えます。

◎川島議員 ロコミでもデマは流れているため、それを跳ね返すだけの何かがないと当選しません。表現の自由もあるので、ある程度は仕方ありませんが、あまりにも根拠のないデマへの規制は必要だと思います。

◎加藤座長 政治に興味を持ってもらうためにはどうすれば良いかということについても議論したいと思いますが、何か考えはありますか。

○参加学生 自身の置かれている環境は大事だと思っています。選挙に行かない人の話を聞くと、親が行かないから、親と政治の話をしないからといった回答がよく挙げられます。若者の前に保護者世代に教育をする方が良いと思いますが、どう考えますか。

◎岩崎議員 主権者教育は大変重要だと思います。18歳、19歳の投票率は高まっても、20代になるとまた戻ってしまうというデータもあり、もう少し学校現場への調査が必要と考えています。

投票所に行くと、独特の雰囲気があり、その雰囲気が嫌で投票に行かないという声も聞きますが、どのように考えていますか。

○参加学生 私の行った投票所では、そのようなことは感じなかったです。

◎川島議員 先程の南部さんの話について、両親は投票に行けますか。

○参加学生 両親は必ず投票に行っており、私も勉強して投票に行っています。

◎川島議員 学校現場で政治のことをしっかり教えた方が良いと思います。大人になってから選挙に行こうという話をするのではなく、子供の時から、政治、選挙についての話をすべきです。

○参加学生 SNSを見てもらうためにはどのような投稿をすべきかについて、身近な問題に直結することを投稿することや、議員の人となり分かるような投稿があると良いと思います。

もう1点、投票率が上がるのは本当に良いことなのか疑問に思っています。生活への危機感があるから投票率が向上する、逆に危機感がない状態、つまり政治家が頑張ってくれている状態では投票率は下がると考えているので、本当に投票率が上がるの

は良いことなのか見解を伺いたいです。

◎谷口議員 先進国ではない国の投票率は非常に高いです。日本は安定しているが故に投票率が低いと言えます。ただ、投票率が低い状態が良いとは言えません。大きな変化が起きるような高い投票率となると、我々としては危機感を持って受け止めないといけません。今回の参議院議員選挙はそのような機会になりました。

◎中山議員 選挙権は、みんなに与えられていたものではなく、獲得してきた権利です。投票率は低くても、考えている人が投票すれば良いという考えは危険だと思います。国民みんなが政治に参加し、投票率が向上することは大事なことです。

◎野田議員 今の政治に対する満足度と投票率はワンセットの指標だと思うので、投票率自体は、低くても良いと思います。今、政治に対して満足しているのであれば、投票率は低くても良い、逆に、不満があり、変えたいという気持ちがあるのに、投票率が低い状況は良くないと思います。決して投票率の高さ、低さだけが問題ではないと思います。

◎河井議員 投票率が高く、満足度も高いということもあり得るので、投票率が高い方が良いと思います。現状の評価をしっかりと行い、自分たちの意見を政治の中で表現してくれる人を選ぶことは大事です。少なくとも4年後、6年後に方向修正の機会があるので失敗を恐れず投票する方が良いです。そして、投票した後、その人が何をしたかをしっかりと見てほしいと思います。

◎加藤座長 国政選挙の投票率に対し、県議会議員選挙や知事選挙の投票率は少し低いですが、そのことに対して、学生の皆さんはどう考えますか。

○参加学生 一番の課題は、話題性と議員の認知度だと思います。国政に出ている方は各政党のトップ層であり、認知度も高いです。今後の取組として、インフルエンサーの活用が出てくるとは思いますが、これについてどのように考えますか。

◎川島議員 自民党としては、新興政党がインフルエンサーを使って行う炎上商法のような適当なことはできません。基本は1つ1つの言葉に責任を持ってきちんとした発言を続けることが大事だと思います。

○参加学生 国の投票率が高く、県の投票率が低い理由は、効果性を理解していないことだと思います。国の場合、消費税など、変化があった際の効果が分かりやすい

のに対し、県は具体的に分からないです。変わった後の効果を示すことが解決策になるのではないのでしょうか。

◎野田議員 効果性の話について、国、県、市がどんな仕事をしているかの棲み分けが届けられていないことが問題だと思います。

インフルエンサーの活用について、入り口としては大事だと思いますが、レコメンド機能の仕組みを理解し、平等性の担保等を意識した上で、活用する必要があると思います。

○参加学生 報道によってマスメディアが描く選挙の構図になってしまうのではないかと思います。マスメディアに対する考え方について伺いたいです。

◎加藤座長 本日、マスメディアの方もいらっしゃいますが、ここで聞くわけにはいきません。いろんな考えを持つ方がいらっしゃいますので、今日伺った皆さんのご意見は、今後の議員活動に生かしていきたいと思います。

記者傍聴：4人（京都新聞、中日新聞、毎日新聞、ZTV）

一般傍聴：1人